

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號五第 卷五十第

行發日一月一十年一十正大

## 論叢

交通税の長短 . . . . . 法學博士 神戸 正雄

傳統派の社會連帶思想 . . . . . 文學博士 米田庄太郎

社會哲學に於ける主義的の二元論的思想 . . . . . 法學士 恒藤 恭

經濟道と經濟術 . . . . . 法學士 作田 莊一

## 時論

我國の人口對食糧問題 . . . . . 法學博士 山本美越乃

食料品市場問題 . . . . . 法學博士 河田 嗣郎

## 資料

金輸出解禁問題 . . . . . 法學博士 戸田 海市

## 雜錄

戰爭と道德の原則 . . . . . 法學博士 財部 靜治

物價引下策と抽籤景品附賣買 . . . . . 法學博士 小川郷太郎

排マルクス説の新刊書一二について . . . . . 法學博士 河上 肇

日銀兌換券發行高の季節的變動 . . . . . 法學士 沙見 三郎

資料

金輸出解禁問題

戸田 海市

本文は京都帝國大學經濟學部經濟演習の參考資料として執筆したるものなり

第一項 豫備智識

金輸出解禁の當否を研究するには豫じめ理解し置くべき種々の問題あり、下の二項の如きは其の最も重要なものに屬す。

第一 所要の物價引下げの程度

歐洲戰後に於ける我經濟の困難は主として我物價が世界的平均よりも著しく騰貴して貿易が逆調を呈し、特に我産業が外國との競争に於て不利に陥れるが爲めなるが、物價の世界的平均を算出することは甚だ困難なり、只だ米國は金の自由なる輸出入を認むる只一の大國なるのみならず、戰爭以來諸國の關稅が増加せられし爲め、米國は以前の如く特に高率の保護稅國と云ふを得ざるに至り(懸案中の高率なる新關稅法の實施を見るに至らば此點に幾分の變化を來すべし)、従つて米國の物價平準が保護稅の爲め特に高位を保つ傾向ありと見るを得ざるに至れり、故に米國の物價平準は略ぼ世界的平均に接近せるものと見るを得べし、而して今日米國の物價指數は戰前に

比して約四割の騰貴を示せるに反し、我國の夫れは二倍餘の騰貴となれるが故に、我物價は世界的平均に對して約五割の高位を示すものと見るを得べし、最も近來我貨幣の對外價値は對米爲替を標準として見れば三四歩の下落を爲せるが爲め、實際の貿易關係に於て我物價は夫れだけ低位を保つことゝなる、併し乍ら我國が金輸出の解禁を行ふときは、我貨幣の對外價値は忽ち平價に恢復するが故に、解禁問題を取扱ふに方りては、我物價が表面の指數通りの騰貴を爲せるものと見做すことを要す。

只茲に注意すべきは我生産物の中戦前より繼續的に最大の騰貴傾向を示すものは主として國內に生産せられて國內に消費せらるゝ特有品なり、此種の生産物は不足の際に外國より輸入するを得ず、又過剩の際に外國に輸出するを得ざるが故に、其價格も外國相場に支配せらるゝことなきに反し、内外共通市場を有する商品は世界的相場に一致するの傾向強きが故に、特有品の如く多大の騰貴を爲すことを得ず、故に今日我物價が世界的平均に對して約五割の騰貴を示すと云ふは特有品と内外共通品とを一體とせる物價指數に付て云ふものにして、内外共通品のみに付て見れば其騰貴程度は遙かに低く、恐らく二三割に止まるべし、果して然らば貿易の逆勢を恢復し、特に外國競争の壓迫を脱するが爲めには、内外共通品の價格を世界的平均に一致せしむる程度の物價引下げを行へば足るべく、從て今日問題とせらるゝ物價調節を實行不能に近き難事業と見るは當を得ず。

上述の如く特に多大の騰貴を示せる特有品は吾人の日常生活に密接の關係ある日用品の重要部分を占むるが故に、國民の生活難を緩和するが爲めには大に此種の生産物の價格を低廉ならしむ

るを要すと雖ども、之れを引下ぐるの手段として一般の物價平準を大々に引下げ、之をして著しく世界的平均よりも低からしむることに由り特有品を低廉ならしむときは、貿易が忽ち輸出超過に轉じて正貨流入を生じ、再び全體の物價平準を世界的平均以上に騰貴せしめ、即ち内外共通品を世界的平均に一致せしむる程度の騰貴を生ずるに至るべし、故に特有品を低廉ならしむる爲めには單に一般物價平準を引下ぐるを以て足れりとせず、更に特有品の生産に付き從來の如き舊式の傳統的手工的方法に依頼することを止めて特創的の發明改良を行ひ、特に收獲漸減法則に強く支配せられつゝある日本米其他の特有食糧品の供給に付き大々の革新を行ふことを必要とすと雖ども、是れ短日月の間に實行し難き所なり、要するに貿易の逆調を回轉する爲めに必要とする物價引下げの程度は世人の往々想像するが如く大なるものにあらざると同時に、此程度の引下げを實行するも特有品を大に低廉ならしめて國民の生活難を根本より救済するの力なきが故に、之が實行を重要視するを得ずとの理由より、目下の物價調節手段としての金輸出解禁に反對するが如きは、解禁問題の意義を解せざるものと云はざるべからず。

## 第二 解禁の貿易に及ぼす直接の作用

金輸出の解禁を行へば三四下方落せる我貨幣の對外價值が平價に恢復し、従つて貿易上より見れば我國の物價が夫れだけ騰貴したることとなるべし、此騰貴が貿易に如何なる影響を及ぼすべきやと云ふに、先づ輸入方面には外國品に對する我國の購買力が夫れだけ増加することとなる、戦時の如く世界を通じ需用多く供給足らざる時代に在ては、我國の需用増加は忽ち外國産地の價格を騰貴せしむる結果となるべきも、今日は世界を通じて不景氣なるが故に、我國の需用増

加は別段に外國産地の價格を騰貴せしめず、従つて我國は解禁に由り以前よりも低廉に外國品を輸入し得るに至るべし、原料機械等の低廉輸入は我生産を利すべきも、種々の製造品の輸入は同種の國內生産を壓迫することゝなるべし。

更に輸出に付て見るに解禁の結果は我輸出品を從來の價格に由りて輸出せんとすれば諸外國へ高價を拂はざるべからず、今日は世界的不況時代に在りて、特に我輸出品は比較的高價なるが爲め外國の需用を減退せるが故に、解禁後は相當に輸出價格を引下げざれば到底外國の販路を維持するを得ざるべし、我輸出の過半は絹業及綿業生産物なるか、此種輸出品は幾分の價格引下げの餘地を有するに反し、戰爭以來勃興せし新事業の生産物には此の如き餘地を存するもの少なきが如し、即ち此種の事業は解禁に由り衰滅の運命に陥る場合なきにあらざるべし。

此の如く解禁の貿易に及ぼす直接の影響は輸入増輸出減となること明かなるが、此増減が如何なる程度に行はるべきやは解禁に對する賛否を決するに大なる關係を有する點なり、此點に關する賛否双方の意見は最初は大なる距離を示したるに反し、近來は稍双方の接近を見るに至れるが如し、即ち解禁は急激なる輸入増輸出減を來たすことなるべしとの意見が相當に優勢となるに至れるが如し、只だ其結果として解禁賛成論者は解禁を以て恐慌來の宣言の如くに恐怖するの不當を主張して解禁の急を論じ、反對論者は解禁を以て物價調節の萬能力あるが如く重要視するの謬を指摘して反對論の理由とし、之が爲め賛否の議論自身の接近を見るに至らず、而して解禁の結果が左まで急激の變化を來たさざるべしとの意見が稍優勢となるに至りしは種々の原因に由るべきも、例年の如く我貿易が下半季に入りて幾分の出超傾向を示すに至れると同時に、官民の一般物

價調節運動が議論の時代を脱して實行の時代に入らんとし、之が爲め人心が緊張して解禁に由る多少の打撃に抵抗するの自信が高まりつゝあるが爲めなるべし、果して然らば條件付き又は無條件の解禁を以て時機の問題と認むる論者に取りては、今日を以て適當の時機と認むるの理由なきにあらず、特に人心の緊張せんとしつゝある今日、解禁の斷行に由り背水の陣を布くときは、戰爭以來の浮華放慢の惡弊を一掃して經濟界の健康恢復を促進するの望なしと云ふを得ざるべし。

最後に解禁の結果として正貨の減少することが、物價を左右する所の通貨及信用の收縮を當然に發生せしむべきやに付ては議論なきにあらず、正貨の減少は如何なる場合にも機械的に通貨信用の收縮を來たすべしと斷定するの不當なるは勿論なれども、他の事情にして異らすんば正貨の減少が通貨信用の收縮を來たすべしと斷定することは多くの異論なかるべし而して解禁の實行が當然に通貨信用の膨脹を來たすが如き他の事情を誘發せしむることは豫想し難きに反し、解禁の斷行は國民に對して重大の警告を與へ、特に金融に關しては從來の放慢の態度を改めて健實なる緊縮的努力を生せしむることを豫想し得べし、解禁の爲め通貨信用の收縮を生ずるは、現實の正貨減少其物に由るよりも寧ろ上述の如く國民を緊張せしむる精神的作用に由ること大なりと認むるを正當とすべし。

## 第二 解禁に關する賛否兩論の要點

世上賛否の議論頗る多岐に亘りて、中には要點を逸するもの少なからずと雖も、双方主張の内容は大體左の數點に歸着すべし。

### 第一 解禁反對論の要點

## 甲 一般産業上の見地

一、我物價を相當に下落せしむるの必要は之を否認せざるも、一昨年之の恐慌に由りて經濟界の被れる創痕は容易に癒えざるが故に、此際物價調節の手段として外科療法に類する通貨收縮に重きを置くは當を得ず、寧ろ生産の維持増進に由り物價の低落を圖ることを要す、固より此方法が効を奏するには相當の長年月を要すと雖も、諸大國の經濟界亦容易に恢復し得ざる不況に陥れるが故に、我國の物價調節は拙速を必要とせず、然るに金輸出解禁は輸入超過の経路に由る通貨收縮策に外ならざるが故に、衰弱せる今日の經濟界に處するの策としては餘りに過激なり。

二、本年の貿易は上半季に於て未曾有の入超を示し、下半季に入るも之を償ふに足るが如き出超に轉することは固より困難なるが故に、金融界は極度の逼迫を示しつゝあり、然るに今解禁を行ふて我貨幣の對外價值を高め、即ち貿易上我物價をして高價ならしむるときは、辛うじて出入均衡に轉じつゝある下半季の貿易も再び入超となり、之が爲め金融界は更に大逼迫を來たさざるを得ず、或は之が爲めに恐慌の來襲するなきを保せず。

三、解禁に由り對外的に我物價を高からしむるときは、今日既に悲境に陥れる經濟界を益々困難ならしむは勿論、戰時中に勃興せし種々の新事業にして今日まで辛うじて殘存せしものも、解禁を行へば外國競争の壓迫を蒙むること益甚しく、其の少なからざる部分は遂に衰滅の悲運に陥らざるを得ず、元來戰時中に勃興せし新事業は概ね國家の獨立を維持するに必要のものにして目前相當の犠牲を忍びて之が維持發展を圖ることを要するものなり、故に今日解禁を斷行して此等の事業を滅亡せしむることは永遠の國是に反す、論者口を開けば解禁が我産業に一時の苦痛を

與へて爾後の恢復を促進することを主張すと雖ども、若し上述の如く衰弱せる一般産業に過激の療法を施して益其衰弱を甚しからしめ、特に多數の新興事業をして滅亡の運命に陥らしむる結果を生ずるときは、解禁に由る打撃は永久的致命的とならざるを得ず。

四、産業の不振と軍備縮小と一般政費節減とに由り、既に中下層階級に多大の失業を生じ、之が救済に苦しみつゝある際に解禁を斷行すれば、更に社會状態を不良ならしむること明かなるが、現時の國情よりすれば之に對して迅速有効の救済策を實行することは不能なり、故に此際は金輸出禁止の現状を維持して徐々に救済策を講ずるに如かず。

#### 乙 正貨保有に關する見解

一、我國が世界の強國として政治上經濟上國際的に有利の地歩を占むる所以の一は、我國が巨額の正貨を所有し、國際問題の解決に方り必要に臨んで自由に之を使用し得る地位に在るが爲めにして、實に此正貨は戰時中に於ける國民努力の結晶と云ふべし、故に現有の正貨は相當の犠牲を忍んで之を保有するの必要あり。

二、正貨保有は我國の地位を一般に有利ならしむるのみならず、今日の國際事情を見るときは、一方には政治的經濟的の不安容易に鎮靜せず、特に我國の利害に密接の關係を有する支那及西比利亞方面に於ては、何時我國の政治的經濟的の出勤を必要とするやの測られざる狀況に在り、他面には今尙ほ米國を除きて一般に金輸出禁止が行はれ、又は米國と雖ども必要に臨み禁止制度を復活するなきを保せず、更に世界金融の現状を顧みるときは我國が必要に臨んで外債に由り正貨を獲得し來ることも困難なり、是れ今日特に現有正貨の保持を必要とする所以なり、現に英國の



如き貿易及投資の關係より目前の對外貸借は既に自國に有利となれると同時に、金輸出禁止を繼續するが爲め着々米國によりて世界金融中心市場たるの地位を奪はれつゝあるに係はらず、尙ほ禁止制度を撤廢し得ざるを見るときは、如何に金の保有が今日の國際關係より見て重要なかを察するに足るべし。

三、世人は往々我國が巨額の正貨を有して之を資本化するを得ず、徒らに物價騰貴の弊を甚しからしむることは金に關して重大なる國民的浪費を爲すものにして、之を有効に利用するの途は解禁を斷行して價格低廉なる外國品就中原料機械等の生産財を購置するに在りと主張するも、以上論ずる所に由りて見れば國家遠大の利害を考慮せず、卑近の物質的損得を打算したるものに外ならず、加之今日解禁を行ふときは正貨の少なからざる部分は不必要品の輸入の爲めに徒費せらるゝを免れず、即ち卑近の利害より見るも解禁の結果は少なからざる浪費を伴ふことを免れず。

## 二 解禁賛成論の要點

### 甲 一般産業上の見地

一、我産業の振興は暴騰せる物價を世界的平均にまで引下ぐることを最先要件とす、此引下げの方法としては生産費節約の整理改良を行ひて有利に生産を増加し得るに至ることを必要とすと雖ども、此事たるや短日月の間に實行し難きが故に、必らずや一面に通貨收縮の方法を探らざるべからず、通貨收縮は一時經濟界に苦痛を與ふことを免れずと雖ども、此苦痛たるや官民一致の努力に由りて能く之に堪ゆることを得べく、決して論者の主張するが如く角を矯めんとして牛を殺す底の結果を生ずるものにあらず、實際に我重要産業には尙ほ整理節約と能率増進との餘地

少なからざるが故に、通貨收縮に由る物價引下げは當業者を鞭撻して整理改善の努力を餘義なくせしむるの好結果を呈すべし、若し今日一時の苦痛を恐れて單に生産増加のみに由り物價調節を行はんとする安易の方法を選むときは、戰爭以來浮華と倫安の惡風に支配せられつゝある經濟界は到底物價調節に必要な大努力を爲すことを得ず、之が爲め我國は世界經濟場裏に於ける落伍者となるを免れず、今や我國は一方に先進の英米より壓迫せられつゝあるが、此二大工業國に於ける戦後の整理恢復の努力は驚嘆に値するものにして、戦時氣分の尙ほ濃厚なる我經濟界は到底其壓迫に抵抗するを得ざるのみならず、他方に我工業は近來支那印度の後進國の工業的擡頭に由りて壓迫を蒙るに至りしが、銀相場の暴落は此等後進國の物價をして對外的に下落せしめ、従つて我國の輸出品は此等後進國の市場より着々驅逐せられつゝあり、論者が物價調節は急を要せずと信ずるは世界の大勢に盲目なりと云はざるべからず。

二、通貨收縮の方法は大體二種あり、一は金輸出禁止の現制度を存置し、直接間接の金利引上げ方法に由りて目的を達せんとするものなるが、此方法の下に於ては輸入減輸出増を生じて國內市場に於ける貨財供給の増加を妨ぐるが故に、一方に通貨を收縮するも物價引下げは容易に實現せられず、従つて所要の物價引下げを行ふが爲めには久しく繼續して大々的の金利引上げを行はざるべからず、然るに今日我國の金利は文明國に比類を見ざる高率のものにして、此金利高が生産振興に由る物價調節を妨ぐる重大原因を爲しつゝあるが故に、此上更に大々的の金融引締りを久しく繼續するときは、角を矯めんとして牛を殺すが如き結果を生ぜざるを得ず、通貨收縮の他

の方法は直接金融に對して人爲を加へず、金輸出解禁を行ふて正貨の流出に由り目的を達せんとするに在り、此方法に由るも通貨收縮に伴ふて金利の騰貴するを免れずと雖ども、一面解禁は輸入増輸出減を生じて國內市場に於ける貨財の供給を増加するが故に、通貨收縮の割合に早く所要の物價引下げを生ずべし、特に此方法は外國より低廉なる原料機械等の實質的資本の輸入を増加するが故に、能く少量の貨幣を以て生産を經營するを得べく、従つて通貨收縮するも其割合に金融を逼迫せしむるの弊なきを得べし。

三、解禁に由り輸入増輸出減を生ずることは、對外競争上我産業を一時不利に陥るゝの缺點ありと雖ども、我國民の生活振りの放慢なると同じく事業經營も放慢にして整理節約の餘地を存する場合多く、特に我が重要産業たる纖維工業は今尙ほ相當の利益を得つゝあるのみならず、一面解禁に由り低廉に原料機械等を輸入するときは當然生産費の減少を來たすが故に、解禁に由る打撃は國民の努力に由り能く之をして一時的のものたらしむるを得べし、戰時中に勃興せし新事業にして我國情に適せざるものは強て之を維持するを要せず、否な人爲的の維持策は結局失敗に終らざるを得ず、只だ國內に發達せしむることを必要とする特別の理由ある産業にして解禁の爲め外國競争に由り滅亡するが如き場合を生ずるときは、其事業に限りて特別の保護方法を講ずるを妨げず、今日の如く金輸出解禁に由り一般の輸入を妨害し、以て無差別的に國內産業保護の結果を生ぜしむることは、保護制度として最も拙劣のものと云はざるべからず。

四、今日解禁を斷行するも論者の恐るゝが如く急激なる輸入増輸出減を生じて我産業を大混亂

に陥るゝの危険なし、本年上半季の大入超に由り一般輸入品は今尙ほ相當に潤澤に存在し、其相場も海外産地の夫れに對して逆輸を示すものなきにあらず、只だ此際無條件解禁を行ふことを甚しく不安なりとするときは、解禁に相當の條件を附し、例へば解禁の實行を數ヶ月後に定めて産業界に猶豫期間を與へ、又は對外支拂の爲めにする正貨の拂下率を漸々引上げて數ヶ月後に平價兌換を行ふが如き方法を採ることを妨げず、官民共に物價調節運動に着手せる今日に於て、此運動を中途に挫折せしめず、繼續的に官民を緊張せしむる爲めには、條件付と無條件とを問はず此際金輸出解禁の斷定を必要とす。

五、解禁に伴ふ經濟界の一時的打撃は失業問題の解決を多々益困難ならしむるが如しと雖ども、若し安易なる現状維持の方針を採るときは、我國は經濟上の落伍者となり、従つて中下層民も永久悲境に沈まざるべからず、加之東西を通じて物價騰貴の際には勞銀の騰貴が之に及ばざると同時に、物價下落の際には勞銀の下落が之に後るゝの事實あるが故に、一時經濟界の不況を生ずる物價下落は中下層民に有利なりと速斷するを得ずと雖ども、此物價下落が資本家に苦痛を與ふる割合に中下層民を苦しむること少なかるべし、而も解禁に由る物價引下げが經濟界の恢復發展に有効なる以上は、之を以て社會上有利なりと斷定するを得べし。

### 乙 正貨保有に關する見解

一、一國が國際の政治上經濟上の活動を爲すに付き自由に處分し得べき正貨を有することの有利なるは事實なれども、今日の如く我國が現有正貨に執着するときは貿易の逆勢の爲め常に之を

喪失するの危険に暴露せられ、不自然の制度に由り辛うじて之を保有し得るに過ぎず、一朝必要の起れる際に安全有利に正貨を處分し得る量も僅小なるを免れず、然るに一度び解禁を斷行して迅速有効に物價調節を行ふときは、貿易を順調ならしめて自由に正貨を獲得するの地位に立ち、従つて有利に自然的に海外投資を爲すことを得べく、其投資方は現有正貨に執着する場合の如く甚しく制限せられたるものにあらず。

二、貿易が順調に向ふときは金融も緩和すべきが故に經濟的に海外投資を爲すの餘力を生ずべしと雖ども、今日の如く物價騰貴に由り貿易が逆調に陥れる間は金融の逼迫も繼續すべく、従つて經濟上より云へば海外投資は概ね甚しき不利とならざるを得ず、世界の政情は今尙安定を缺くは事實なれども、東亞の不安は外より來るにあらず、寧ろ我國の武力的經濟的の帝國主義の實行が主たる原因を爲せるは争ふべからざる事實なり、故に我國の對外方針の一變したる今後に於て、國際關係就中東亞問題を處理するが爲め正貨を必要とする場合は、公正なる經濟的利益を保護する爲めなるべきも、上述の如く金輸出禁止の現制度を維持する限り經濟的の海外投資を爲すの餘力を生ずるを得ず、論者は米國以外の諸大國が未だ解禁を斷行せざるを見て我國が今日解禁するは輕率なりと斷定すと雖ども、諸外國の禁止の繼續には夫れ々々特別の理由あるべく、又不必要に之を繼續するの過誤に陥れるものもあるべし、戦後の世界を冷靜に觀察すれば、最早や戦前の如く帝國主義の實行の爲め各國が金の吸收蓄積に熱中するの時代にあらず、又戦争に由り紊亂せる幣制を整理して兌換制度を恢復するが爲め金の吸收に努力するの餘裕を存するものなし、現

に米國は正貨の過剰に苦しみて金輸出解禁を斷行せるに係はらず、寧ろ其意思に反して正貨流入の傾向を呈しつゝあるを見れば、金輸出禁止の汎く行はるゝ今日と雖ども、貿易を順調ならしむるときは必要に臨みて正貨を獲得するの難からざるを證するものなり、我國が今日解禁を行ふときは、貿易上より急激なる正貨流出を生ずることなかるべきも、經濟以外の理由よりして諸外國の爲めに正貨を吸収し去らるべしと信ずるが如きは、世界の大勢に通ぜざるものと云はざるべからず。

三、今日の如く我國の利息の高率なることは資本缺乏の甚しきことを示すものなるが、我國に於て比較的にも潤澤の供給を有する資本財は正貨に外ならず、此正貨を國內に流通するときは物價騰貴の有害なる結果を生じて資本の浪費とならざるを得ず、故に正貨を海外に出して低廉なる原料機械等の資本財を輸入することが、現有資本を最も有効に活用する所以なるが、目下官民一致して着手しつゝある整理節約の運動が有効に行はれ、特に一時の流行に止まらずして繼續的に行はるゝときは、解禁に由りて現有正貨は主として低廉なる資本財の輸入に使用せらるべし、而して官民をして眞劍に持續的に整理節約に努力せしむるが爲めには、解禁に由る通貨收縮策を斷行して背水の陣を布くの必要あることは争ふべからず。

以上は賛否兩論の要點なるが、此論争の根據は現在の事實の解釋及將來の見込の相違に存するのみならず、更に其背景として保守思想と進歩思想、帝國主義と世界主義、又は保護貿易的傾向と自由貿易的傾向との對立を認め得べきが如しと雖も、解禁問題に就き此の如き思想の對立が果して本質的關係を有するや否やは慎重の吟味を必要とすべし。